校友時報

平成3年12月21日
編集人兼発行人
秋田県能代市高瑪2番1号
秋田県立能代高等学校新聞部
印刷所　㈱大勝堂印刷

桜井君が会長に

活気ある生徒会を

副会長 工藤洋美君　副会長 青山　崇君　会　長 桜井博文君

団長大高真君、副団長門脇正行君

今年度後期の生徒会役員が選出され、桜井博文君を中心とした生徒会指導体制が確立した。選挙では意外に不信任票も多く、一般生徒の主体性の弱さは気になるが、執行部のサポートを受けて、やる気あふれる出発である。

十月八日に行われた、今年度後期の生徒会役員選挙の結果、新会長には二年F組の桜井博文君、副会長には同じく二年F組の青山崇君と一年E組の工藤洋美君がそれぞれ当選した。

意外に多い不信任票

求められる主体性

今回は役員とも対立候補がなく、信任投票で決定した。しかし投票数の内訳をみると、会長については約三千五百、数字にして三百二十人の人が不信任票を投じており、副会長についても同様の傾向があった。これに対して、「立候補者がそろわない中で、せっかく立候補した人を不信任するとは理解できない。執行体制が確立ないことがどういうことかわかっていないのではないか」という声も聞かれた。また「来年度からは、選挙への関心度を高めるために、ポスターや放送を使ったらどうか」とか「立候補者が校内を"遊説"してまわり、それぞれの考えを広めれば良い」などという選挙運動に関しての意見もあった。

新会長の桜井君は、今後の活動について次のように語っている。

「今年は活気あふれる生徒会を目指してがんばっていきたい。そのために、全校生徒にもっと生徒会の目的の活動を把握してもらい生徒会と生徒との連帯感を強めたい。また、全校生徒で楽しめる行事を取り入れていきたい。これはまた企画の段階なのでよい案があったら、どんどん生徒会室へ持ってきてほしい」

応援団も信任

生徒会三役の選挙と同時に行われた、応援団々長・副団長の信任投票では、大高真君（二D）と門脇正行君（二E）がそれぞれ信任された。

現在一、二年生の応援団員は十五人いるが、大高君は「来シーズンにはもっと団員を増やして試合を盛り上げたい」と語っている。

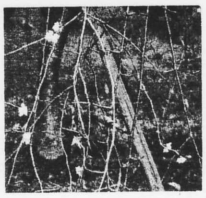
三役をサポートする執行部の面々

執行部も分担決まる

生徒会三役以外の執行部の分担は、次のように決まった。

総務　安部　謙介、渡部　洋平
庶務　大越　孝生、伊藤　崇久
会計　平賀　祐子、三澤　牧子
書記　安藤子純子、寺田恵美子
広報　飯田　深雪、茂理　則子
　　畠　　譲

このうち会計係は、来年度の予算編成方針の決定、広報係は「生徒会報」の作成などで、すでに活発な動きを見せている。執行部の中には他の部に欠っている人もいるが、屋休みや放課後に寸暇を惜しんでがんばっている。



しだれ桜狂い咲き

自在の像のうしろにあるしだれ桜が、十月末に狂い咲き、三十輪ほどの花をつけた。

これは九月二十日に風速五十四メートルという台風が襲来したが、その影響であろうという。皆さん気がつかれたか？

女子の新制服決まる

知性と清潔感を強調

改正に向けて具体的な動きをみせていた女子生徒の制服の問題に結着がつき、新しい制服が決まった。

女子の制服は昭和二十七年ごろの制定といわれるが、特に夏季にジャンパースカートが暑苦しいと、スタイルがやや時代遅れになっていることから改正を求める声が強まっていた。アンケート調査でも保護者の82%、生徒の90%が全面的、あるいは夏季服の改正を要望していることがわかった。

学校では七月に、服装検討委員会がスタート。校内はもとより、専門家の声も集めて、能代高校にふさわしい制服の形を探ってきた。九月には大手学生服メーカー四社による デザインコンペを開き、出品された数十種類の作品を比較し検討を加えた。この結果、秋田ヨット服販売株式会社の作品を基本的に採用することになったが、その後もデザイナーと細部について話し合い、若干の変更も加えて最終案にたどりついたということである。

若々しく　可愛らしく

デザインを担当したのは、ハナエ・モリ・スクールジェンス（森英恵教室）で、近年にないほどの自信作という。

検討委員会の委員長をつとめられた笠澤忠先生にお話をうかがった。

「制服のデザインを考案する上では、本校の伝統、社会的な期待、学校の地域性や環境などを十分に考慮し研究していこうと心がけ、業者にもその点を依頼した。

また、近くの高校と類似しないものであること、季節の変化に適切に対応できる機能性を備えていることについても注意してもらった。

制服はフォーマル・ウェアであるという立場から、上下紺一色であること、暑苦しさの解消のためジャンパースカートを廃止し、ベスト付きにすること、若さと可愛らしさを出すためにスクールカラーのスコットタイを使うこと、進学希望者が圧倒的に多いという学校の特殊性から、知性と清潔感を強調し、どちらかというとボーイッシュな感じを持たせること、そして、自転車通学者が多いことも配慮して、ひとつひとつチェックしながら検討を加えた」というお話だった。

実物は、職員室前に展示してあります

〈写真〉（上）は新しい制服正面。
（下左）は上衣を取ったとき。（下右）は上衣の図。
前身頃の打ち合わせがVカットになっている。金色のボタン、左胸のエンブレムが若々しい。スカートは箱ひだ。スカート丈は現在の制服よりも短くなっている。

念願の土地を取得

●今後の計画

新しい前庭の構想実現へ向かう

本校校舎前の校地を広げて整備したいという計画は平成元年以来具体化が図られてきた。

さる十一月六日に校地前の田んぼの所有者と県当局との間で売買契約がまとまり、田んぼは本校校地となった。

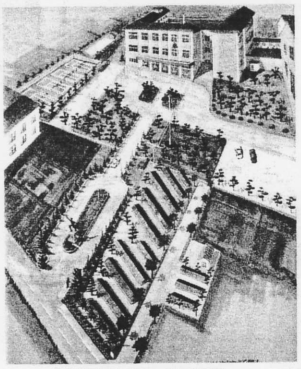
今回の買収が成立したのは、バス停留所前の道路に面した南側の田んぼの部分四、一七一・九㎡。予算の限られる中で多方面からの理解を得て、数年来の念願がかなえられたということである。

今回の買収にともない、今後さまざまな整備が計画されているが主なものは次のとおりである。

土地の造成が完了したのち、新しく設置が予定されているものは①自転車置場の設置、②ロータリーの設置、③植樹など。また現在あるものを移動する予定のものは、①校門、②自在の像、③時計台などである。

以上の計画をわかりやすく示すために、美術の戸松先生が描いた鳥かん図が、上の絵であるが、今回買収したところを造成して、新しいロータリーや広い自転車置場を作る計画であることがわかる。また、田屋方面に通じる市道に面して、校門や自在の像が画かれている。

本校は全県下に誇る広い校地や整った設備を有しているが、市街地その他から遠いことによる危険や不便もまだ残されている。今度の校地拡張で、それらが大幅に改善されることと思われる。



前庭造成完成予想図

スクールバス運行

始発時刻に変更

今年も十一月十九日から、冬のスクールバスが運行している。

例年同様、中和線、天理線、東能代線の三ルートで、定期券、回数券の種類も同じであるが、どの路線も始発時刻が五分繰り下げられた点が変更点。今年は雪も少なく今のところ順調に走行している。

スクールバスは、冬休み中も補習に合わせて運行される。

着用は新一年生から

新しい制服を着るのは平成四年度入学生からということになっている。したがって、全校が新しい制服になるのは三年後ということになる。ただ、現一年生が新制服の着用についてどんな希望を持っているかを目下調査中。その結果を見て対応するとのこと。

また今後、冬服としてどう対応していくかなどの問題が残されているが、必要に応じて検討していくことになっている。

センター試験近し

一六一人受験予定

大学入試センター試験は、来年一月十一日、十二日の両日全国一斉に行われる。本校からは百六十一人が受験する予定。今年は受験人口が近年最高の年といわれるが、三年生は必死の追込みにかかっている。健闘を祈る。

三角点

宝物を見つけろ

▼学校に行けば友達に会えるし、毎日の生活にこれと言った苦痛を感じるようなことはないが、けれども、何かもの足りない。程度の差はあれ、そんな風に感じたことがあるよ人は少なくないのではなかろうか。▼その程度の甚だしいのが、いわゆる「五月病」とか「燃え尽き症候群」とか呼ばれるものである。これらは、苛酷な受験勉強から解放された大学の新入生が、授業にも出席せず、かと言って他に熱中することもなく、毎日を無気力に過ごしている状態を表しているものである。▼このような大学生とは対照的に、我が校には抜群に明るく意欲的に毎日を過ごしている人が、どのクラスにも何人かずついる。そういう人たちを見て気がつくことは、彼らはみな何らかの目標や活躍の場を持っている、ということである。▼目標があってこそ、人生は充実する。しかし、自分なりの目標を持って言われてもすぐに持てるものではない。大切なことは、自分の持つ能力を思う存分試してみることである。一番の失敗は、失敗を恐れて何もしないことである。できるできないが問題なのではない。今まで自分がうまくいっていると思っていたものにも、もう一度目を向けてみよう。すると、自分がそう感じていたものほど、基礎からの積み上げを怠っていたと言うことに気がつくだろう。▼自分自身の人生を充実させるものを捜し当てるのだ。我々のうち誰もが、それをつかみ取る力を持っている。そして、そのような宝物は能代高校のあらゆるところに姿を隠しているのではないのだろうか。自分が思いついたことや、興味を抱いたものは、恐れずにそれを実行に移してみよう。

Ⓦ